

視覚 障害



その研究と情報

1980年 9月 No.49

ISSN 0385-7476

NHKブックス

福祉の思想

糸賀一雄著

600円 丁160円

福祉とは西欧先進国の施設を真似ることや哲学的探究ではなく、人間の価値をふまえた心と行動的実践である。精神薄弱児施設・近江学園を創設した著者が、貴重な体験を通じて福祉への対策、理解、積極的協力を求める。

友だち百人でできるかな

ある全盲児の統合教育

篠崎恵昭著

600円 丁160円

ひとりの全盲児が昭和50年4月、全国で初めて普通の公立小学校へ入学した。本書は担任教師がクラスの子どもたちと一体になって取り組んだ2年間の感動的な実践記録であり、学校教育への鋭い問いかけの書でもある。

盲人に音楽を

佐藤国蔵の生涯

鈴木栄助著

650円 丁160円

失明寸前という苦悩にもめげず、音楽に希望を見出し、文明開化の時代を生き抜いた。日本点字楽譜の祖「佐藤国蔵」強い意志と盲人仲間への愛に貫かれた、その生涯は、盲人の生き方と福祉に新たな光明を投じる。

NHKブックスジュニア

中学生日記(1)

大西信行著

800円 丁160円

ある出会い

中学生日記(2)

山田正弘著

800円 丁160円

伸一のとびだち

中学生日記(3)

蓬萊泰三著

800円 丁160円

私のペガサス

中学生日記(4)

石川孝人著

800円 丁160円

初恋とゼロ戦

中学生日記(5)

有高扶桑／佐藤竜太著

800円 丁160円

きょうまでの友

中学生日記(6)

関 功著

800円 丁160円

わがよき友は

中学生日記(7)

能勢紘也著

800円 丁160円

緑のトンネル

中学生日記(8)

篠崎 好著

800円 丁160円

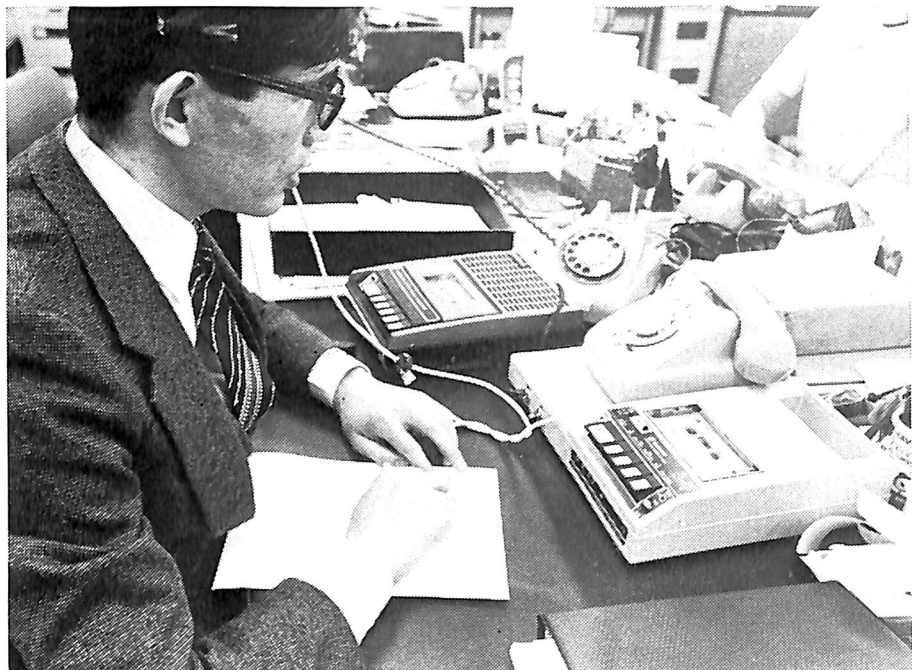
翔べない青春

日本放送出版協会

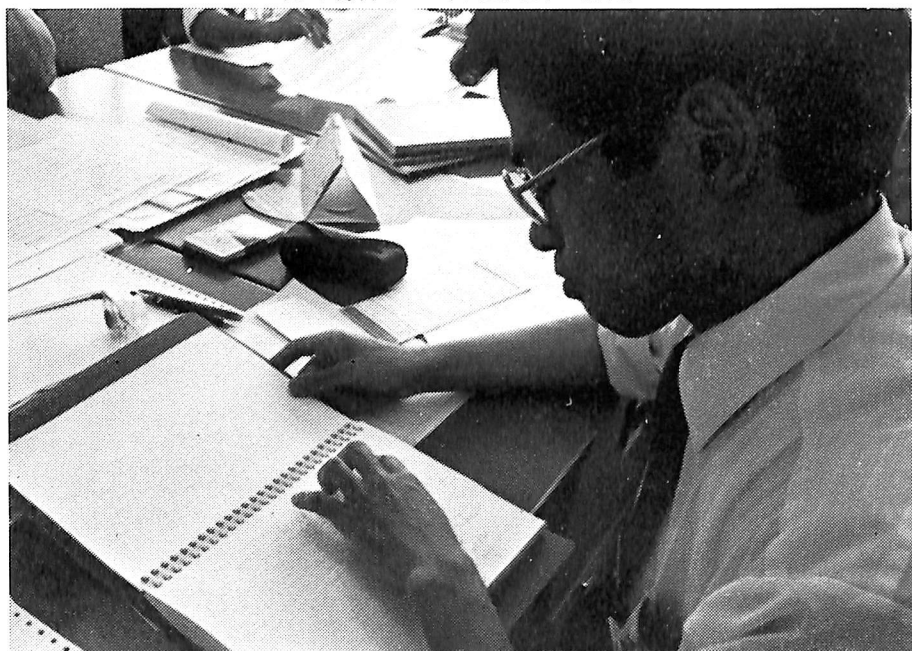
盲人の職業



コンピュータープログラマーの嶋村文隆さん。



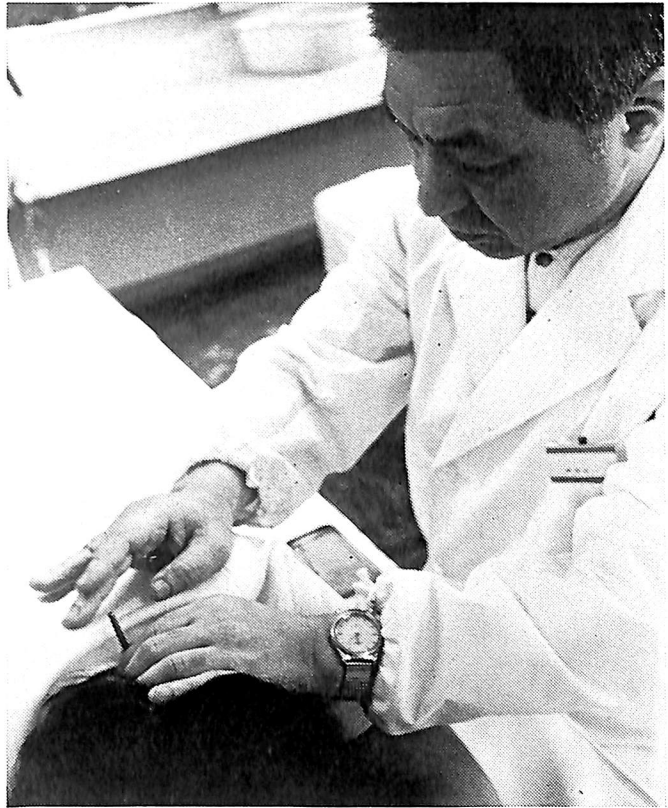
大宮の武蔵野銀行事務センターで、コンピューターのプログラマー・プランナーとして働く嶋村さん（中途失明・弱視）



三井信託銀行日本橋支店営業課の菅藤武夫さん
中途失明、元の職場で仕事を続けている。

三 療

筑波大学付属盲学校理療科 長尾 栄一氏



日本で盲人の職業即三療と言われていた時代に、ロシアの盲目の詩人エロシェンコは、日本に来ていた。そして、日本の盲人が自立していることを高く評価していた。

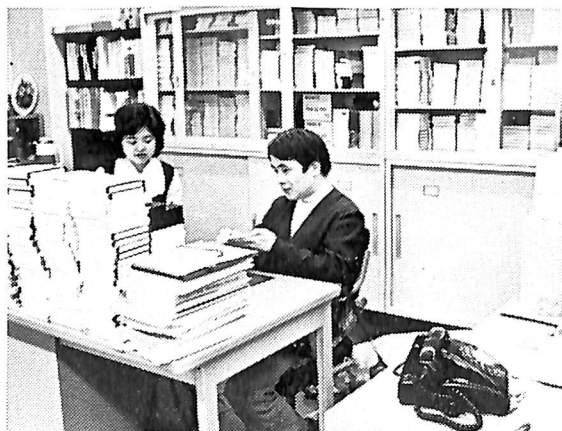
盲人だから不可能である職業よりは、能力と努力の欠如により不可能である職業の方が多い。盲人であっても、詩人であることも、哲学者であることも、むろん教師であることも、大学教授であることも、銀行員であることも、音楽家であることも可能である。しかし、画家であることは、不可能である。もう一度しかし、目が見えていても、本物の画家であることのできる人の何と少ないことか！ 努力しないでなろうというなら、当然論外である。努力して、才能があっても、盲目であるということでそれを認めまいとする世間の認識不足を相手に、更なる努力をしなければならないのが現状ではある。



日本点字図書館館長
本間 一夫さん



会社重役でもあり、作家でもあった故宮崎康平さん



都立中央図書館職員 田中章二さん



国立特殊教育研究所盲教育研究室長
木塚 泰弘さん



東京経済大学教授 竹前栄治さん

目 次

1980年 9月 No.49

2 ページ 評論	調 一興.....	2
----------------	-----------	---

特集 視覚障害者の雇用

座談会 視覚障害者の雇用はどうすれば広げられるか.....	5
-------------------------------	---

手塚 直樹 橋本 宗明 堀 利和

松井新二郎 直居 鉄

実践レポート 視覚障害者の仕事	23
-----------------------	----

労務管理に追われる今	中村 繁.....	23
------------------	----------------	----

私はこうしてこの仕事について	金沢 明二.....	26
----------------------	-----------------	----

現在考えること	嶋村 文隆.....	29
---------------	-----------------	----

人・人・人 福島県立会津短期大学で教鞭をとる吉本充賜さん.....	34
-----------------------------------	----

先人の叡智（その10）.....	37
------------------	----

施設紹介 30周年を迎えた東京ヘレン・ケラー協会	44
--------------------------------	----

インフォメーション・コーナー	47
----------------------	----

編集後記	52
------------	----

立ち読み版はここまでとなっております。

続きをお読みになりたい場合には
社会福祉法人 視覚障害者支援総合センター
までお問い合わせください。

編 集 後 記

身障者雇用月間を前に、今回は「視覚障害者の雇用」の問題を特集しました。

盲学校から短大に進学したある女子学生が保育園に就職しようとして壁にぶつかりました。どの保育園でも面接で落とされます。弱視では幼児の顔色がわからない、緊急の処置がとれないといったことがその理由でした。その後、さいわい複数担任制をとっている保育園に就職することができましたが、彼女は、自分にどれだけのことができるか、実際の仕事を通して理解してもらうほかはないとがんばっています。

最近、大学受験の交渉を盲学校の先生がしています。幾つかの大学に合格して、そのうちの一つを選べるようにもなりました。そうした状況は望ましいことではあるのですが、視覚障害者に甘えの思想をはぐくむ結果になりはしないかと心配です。

雇用の門は、進学の門よりはるかに重いものです。障害者を雇うことにメリットがあるのかを雇う側はまず第一に検討します。職場での人間関係は、学生時代の友人関係とは異質のものです。就労に失敗したら後がないくらいの覚悟は必要です。しかし、雇用の促進も大学の門戸開放の運動と同様に、結局はやる気のある視覚障害者による一点突破の方式で一つ一つ実績を積み上げていくことになるのでしょうか。

人事院は国家公務員の点字受験について調査を始めたそうです。雇用問題も徐々に進みつつあります。雇用の問題は促進運動をぬきにしては考えられませんが、それ以前に、就労に耐えうる個人を育てておくことが、より緊急な課題のように思われます。

(K.K.)

視 覚 障 害	1980 年 9 月 No.49
年間購読料	2,500 円 (送料とも)
発行日	1980 年 9 月 1 日
発行者	本 間 一 夫
編集者	松井新二郎
発行所	日本盲人福祉研究会
	〒 160 東京都新宿区高田馬場 1 丁目 日本点字図書館内 23 番 4 号
	電話 (03) 200 - 1130
	振替口座 東 京 6 - 1 6 1 0 3
印刷所	合同印刷株式会社
	〒 130 東京都墨田区業平 2 - 9 - 13 電話 (624) 6111 (代表)

協賛団体 日本点字図書館